

Report of a Lecture on Aichi Triennale 2019

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井原, 麗奈 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00027542

あいちトリエンナーレ 2019 に関する講演会

井原 麗奈（静岡大学地域創造学環）

開催日：2019年11月28日（木）14:25～15:55（講演会）・16:05～17:35（座談会）

会場：静岡大学 教育学部 G 棟 104 号室

内容：塩津青夏氏（あいちトリエンナーレ 2019 プロジェクト・マネジャー/愛知県トリエンナーレ推進室 主任）による講演会及び座談会

参加人数：107名【地域創造学環の学生・教員64名、地域創造学環以外の教職員・学生（学部生・院生）27名（人文社会科学部・教育学部・農学部・地域法実務実践センター）、一般参加者16名】

地域創造学環の主催であいちトリエンナーレ 2019 に関する講演会及び座談会を開催した。アート&マネジメントコースでは「地域創造演習」の授業の一環としたが、他コースの学生の参加も複数見られた。8月以降、マスコミでも長期にわたって取り上げられた話題の国際美術展をテーマとした内容であったため、普段美術に関心のない層にも訴えたとみられ、多くの参加者を得ることができた。講師からはマスコミの報道からは知ることのできなかつた情報も数多く提供され、事態を当事者（主催者）の側から理解することとなった。学生たちのレポートには「もう少し踏み込んだ内容について聞きたかった」という感想が複数あった。講演者の立場や時間的な制約を考えると今回の講演会だけで、起こった事象の全てを捉えようとするには限界があり、引き続き個々の授業の中で紹介しつつ学生たちと議論を続ける必要がある。またレポートからは「芸術や『表現の自由』を議論し、受け止める土壌が日本には整っていないのではないか」「国家による『検閲』だと指摘する声もあったが、『検閲』に当たるかどうかはもう少し考える必要がある」「（作品や展覧会を）短絡的な考えで批判しているように思えるため対話が必要」といった趣旨の指摘や感想が読み取れた。学生たちが事態を傍観するのではなく、自分の事としてこの問題を捉え、思考している様子がうかがえた。中には「話を聞いて更に視界が不鮮明になった」という感想もあり、事態の複層性を指摘していると言えよう。

後半では塩津氏と参加者で自由な意見交換会を行った。フロアからも質問や意見が複数寄せられ、活発な議論を生み出すことができたこと、またイラストの得意な学生たちが黒板にグラフィックレコーディングを行い、議論の内容を共有できるように積極的に働いていたことは大きな成果だった。1年生にとっては難しいテーマであったようだが、何が問題とされているのか、そしてそれに対してどのような立場で、どのような意見を言う人がいるのかを知ることができたようである。

これをきっかけに、現実を複眼的に捉え、自身の頭で考え、行動する必要性を認識し、主体性を身につけて欲しいと願う。



図 1：学生たちによるグラフィックレコーディング



図 2：講演会の様子



図 3：座談会の様子